

「生涯学びを楽しむ」 人材育成を目指す大学づくり



名城大学学長 吉久 光一

名城大学は、8学部11研究科、在学生15,000 人を擁する文理融合型の総合大学で、18万人を 超える卒業生はグローバル企業が集中する中部圏 を中心に、国内外で活躍しています。開学90周 年を迎える来年の2016年には、ナゴヤドーム前 キャンパスを開設し、同年4月に本学の9番目の 学部となる外国語学部を設置します。この新キャ ンパスには、1年後の2017年に既設のキャンパ スから都市情報学部・研究科、人間学部・研究科 を移転します。また、開学100周年を迎える 2026年を目標年とした中長期計画として「学校 法人名城大学の基本戦略(MS-26=Meijo-Strategy 2016)」を本年、スタートさせました。 このMS-26では、大学のステークホルダー全員 が共有する価値観として「生涯学びを楽しむ」を 掲げています。この言葉には、本学で学ぶ学生諸 君が在学中に「学ぶ楽しさ」に気づき、卒業・修 了後も、それぞれの多様なコミュニティの中で、 さまざまな人や文化と出会い、人生を楽しみなが ら生涯学び続けてほしいという願いが込められて います。

以上のような、キャンパスの新設やMS-26の 策定を機に、大学全体のICT環境を見直す動きが 出てきました。

第2期の教育振興基本計画(平成25年度から 29年度) や本年1月に策定された高大接続改革 実行プランでも、双方向の授業や主体的な学修な ど、大学教育の質的転換の重要性が述べられてお り、アクティブ・ラーニングなどの教育に不可欠 なICTを活用した教育環境がより一層強く求めら れています。言うまでもなく、大学を取り巻く諸 環境(少子化、グローバル化、多様化、セキュリ ティなど)への対応としてのICTの利活用も不可 欠であり、現在、大学としてのICT戦略の確立を 目指し、「ICT戦略検討部会」の下でICTを効果的 に活用した教育支援とともに、学生支援、研究支 援、業務支援、大学運営支援などの大学全体の基 本計画を策定中です。

スマートシティという言葉を聞くようになりま した。これは「ICTを活用して基礎・生活インフ ラを効率的に運営(=スマート)することによっ て、人々がより快適に暮らすことが可能になる都 市」のことであり、スマート化の対象はエネルギ ー、交通システム、上下水道などのハードインフ ラに加えて、医療・介護サービス、教育、防災な どのソフトインフラも本来的には含まれます*。 スマートシティやスマートタウンという言葉は、 主にエネルギーをICTにより効率的に活用する町 を指すことが多いようですが、このようにエネル ギーだけでなく様々なソフトインフラも含まれま す。この視点から本学では、「ICTスマート大学」 と称して「ICTを活用して、教育資源・研究資源 を効率的に運用することによって、学生、教職員 が快適に勉学・研究することが可能になる大学」 を、目指したいと考えています。

新キャンパスの開設により、学生の学修環境、 教職員の業務環境、学部運営に関するマネジメン ト支援環境などの取り組みが急務であり、図書館 の電子化(書籍用ICタグによる蔵書管理、利用歴 の管理、タブレット等端末による電子書籍閲覧な ど) や入学前から在学中、卒業までのデータを活 用した "エンロールメントマネジメント"を実 施する計画です。

現在、「ICTスマート大学」の構築に着手した ところですが、本学のビジョンである「生涯学び を楽しむ」という価値観を持った人材育成に向け て、ICTを大学全体で効率的、効果的に活用して いきたいと願っています。

^{**}佐藤浩介: Research Focus, No.2013-02, 日本総研, 2013.